

令和3年度第3回社会教育委員会議 会議摘録

開催日時：令和4年3月10日（木）午前10時00分～11時55分

開催場所：精華町立図書館集会室

出席委員

高鍋房美委員長・村上栄副委員長・田中智美委員・白畑丈子委員・尾崎麻由美委員・
網野俊賢委員・北尾直美委員・堀口紀代美委員・播磨富士子委員・米澤正展委員

出席事務局職員

教育長：川村 智、教育部長：浦本佳行、生涯学習課長：田原孝一、図書館長：波
尻寛之、生涯学習課長補佐：島川宗久

傍聴者：2名

内容

- 1 開会
- 2 あいさつ

○高鍋委員長あいさつ

おはようございます。コロナ収束が見通せないまま2年が過ぎてしまいましたが、本日は皆様のお顔を拝見でき大変うれしく、無事過ごせていることに感謝します。京都大学の山中伸弥教授が、このコロナを乗り切るのに一番大切なものは「優しさです」というコメントをされていたことを心に留め、優しさを大切にしながら、今すべきことは何か、優先すべきことは何かを考え、いろいろな課題を克服し、将来振り返った時に、伝えていくべき大切な歴史の1ページになるように努力していきたいと思いません。

○川村教育長

今年度最後の社会教育委員会議の開会に当たり、ご挨拶を申し上げます。委員の皆様には、ご多忙の中ご出席を賜りまして感謝を申し上げます。

1月以降、まん延防止等重点措置が続き、学校でも学級閉鎖などの対応を取らざるを得ない状態が続き、生涯学習、社会教育の様々な事業も縮小や延期、中止となり、この会議も開催を見送ってまいりました。

そうした厳しい状況が続く中、町では3回目のワクチン接種を鋭意取り組んでいるところです。

さて、非常に懸念されることとしてロシアによるウクライナの侵攻という事態が起こっています。これらの国々の歴史をたどりますと、もう1000年以上も前から大変な歴史を展開してきているようです。新型コロナウイルス感染症とこのウクライナのこと、どうか穏やかな状態に回復する方向に向かってほしいと願うばかりです。

本日も、幾つかの事項についてご報告をいたしますので、ご意見賜りますようお願い申し上げます。

なお、皆様の任期について、本年3月末をもって終了となり、また新たに選任、教育委員会の議決をもって委嘱をさせていただきます。選任に当たりましては、委員の構成を変えながら精華町の社会教育、生涯学習に貢献する新たな人材、青年層の方も掘り起こしていくといった狙いも持っていきたいと思っています。

ご理解賜りますようお願い申し上げます、開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございます。

3 議事

(1) 令和4年度社会教育事業関連予算について

事務局から生涯学習課所管の令和4年度社会教育事業関連予算概要、社会教育関係団体への助成等の概要について説明を行った。

(2) 令和4年度社会教育指導の重点について

事務局から社会教育の重点について、令和4年度に向けての修正箇所を中心に内容説明を行った。

○村上委員

家庭教育力の向上について、先日、府の家庭教育支援関係者研修会で東光小学校がパネルディスカッションに参加されておりました。また、家庭教育支援チームを結成する予定などありました参考までにお聞かせください。

○事務局

事務局のほうで、情報を収集して委員の皆様に報告いたします。

○事務局

補足の説明ですが、指導の重点の町立図書館の充実ということで、移動図書館車の運用により、高齢者や身体障害者などの読書活動を支援するという文言を追加しましたが、先日の教育委員会で指摘があり、高齢者や身体障害者と、小さいお子さんを連れた親子連れ、子育て世代にも移動図書館車の利用の促進をしたらいいのではないかとということで、子育て世代の親子連れという文言の追加を考えています。

○網野委員

人生100年時代と言われるように、学校教育を終えてから死ぬまでの期間がどんどん長くなっています。さらに、人口分布の高齢者層が増えていくとなると、どの年齢層に対してどのように社会教育が関わっていくのかということが大きな課題になると思います。今後、長期的視点で見た時に、社会教育の重点というものを年齢別に考えた時に限られた予算の中で今の予算配分できるのかという課題も出てくるかと思いますが。

○事務局

生涯学習、社会教育に求められている役割、目的というのは、子どもから成人、そして高齢者の方全ての世代で、全ての社会的な立場の方に対して、生涯にわたって学んでいただく機会を提供するというのが基本的な考え方だと思いますので、全ての世代の方が参加していただけるような講座を開設するとか、図書館活動を推進するというのが基本であると認識しております。

○網野委員

ただ、恐らく社会教育という考え方が日本で導入された時に、こんな高齢化社会になるとは想定していなかったように思うんですね。社会教育の考え方そのものを変えていかなければならない時代に来ているのではないかとも思います。

○事務局

財源の問題や人の問題がもちろんありますが、文化、体育においても全ての世代、あらゆる方に学んでもらえるような機会の提供ということは意識しながら事業計画を立てていきたいと考えております。

○川村教育長

年齢層の考え方は確かに重要なポイントだと思います。小学生から高校生まで、そして大学進学される方は大学まで、ここは学びの場というのは学校という組織の中で機会があります。それから壮年期、中年期ぐらいになりますと、職業的な場においていろいろな学びの場がございます。

ところが、高齢期になってきますと、意図的な組織をしないと、学びの場が少ない状態になり、この高齢期が非常に長くなってきているということで、ご指摘のとおりだと思います。

実際、文化協会の取組でも、スポーツ事業でも、もっと充実させるということはもちろんですけども、ご高齢の方が結構たくさん参加されて活躍されている印象がございます。

○田中委員

根本的なことなのですが、社会教育委員とは何か、ということです。

私たち社会教育委員とは地域の中に入り込んで、そして子どもたち、地域の住民の方たちとともに、いろいろなことに接しながら事業を実行していくというのが社会教育委員の仕事だと私は思っております。やはり社会教育委員という役割があって、それに基づいて活動しているという意識を持って地域の中に入り込んでいくというのがこれからはますます大事になってきていると思います。

○網野委員

私も社会教育委員の役割とは何なのだろうと思ったことがあります。会議に出て賛

成ですとか言うだけが社会教育委員の役割だというふうに我々自身が理解してしまったら、社会教育委員の存在価値もどうなのかということになるので、正しい認識と同時にそれをどういう行動で示していくのかによって地域社会から社会教育委員の存在というものをきちんと認識されるようにつながるとも思いますのでとても重要なことであると感じています。

○播磨委員

読み聞かせの活動などの際に、自分が社会教育委員としてどんな活動をしているのかを周りの人に話す機会もございませんでした。できるだけ学習の機会に参加したい思いがありましたが、コロナで会議や研修の機会も少なかったので、もう少し勉強させていただきたいという気持ちです。

○田中委員

自分の活動していることを中心に地域の中へ入り込んで皆さんと意見交換したり、他の市町村の社会教育委員の方との情報交換も非常に勉強になります。

○事務局

コロナ禍により、昨年度から会議や研修会が開催ができない状況でしたが、新年度に向けて事務局としても、皆様のご意見を参考にして研修の場を設けていきたいと思えます。

○川村教育長

社会教育委員の役割というのは、一番の役割はこういった会議の場、その他の場を通じて社会教育、生涯学習に係る行政に対しての皆様の知見を反映させていくということがございます。その知見により、十分でないところなどを正していただくということが最大の任務でございます。指導の重点や、予算についてのご意見をいただくのが重要だということで、この会議でも議題として挙げておりますので、ご理解いただけましたらと思います。

(3) 移動図書館車について

事務局（図書館長）から移動図書館車の更新等について、利用者アンケートの結果報告や図書館車巡回場所及び時間案、また、車両概要と納車スケジュール等について説明を行った。

○播磨委員

移動図書館車のバーバパパの絵柄を見たら、子どもたちもすごく喜ぶと思います。保育園も巡回されるというのですが、図書館車の内覧会など披露する機会はあれば良いと思います。それと、図書館車は2人で巡回されるということですが、本をトラックに乗せる作業もありますので安全に運営いただければと思います。

○事務局

4月に出発式を予定していきまして、保育所へ案内することとしております。

図書館車を納車後、2週間程度で十分試運転をして、交通安全に気をつけながら巡回時間等の最終調整をしたいと思っております。

○網野委員

移動図書館車の利用者数は上昇傾向なのですか。それと移動図書館車というのは住民に相当周知されているのでしょうか。町内を走る車両ですので走る広告塔としてもっとデザインを移動図書館車の宣伝になるようQRコードを付けたりするなど工夫できると思っております。

○事務局

貸出箇所全体で見ると、この2年間で貸出し冊数は約3,000冊増えて年間約12,000冊の貸出しとなっている現状です。町民への広報としては、町の広報誌の最後のページに図書館の特集をさせていただいたり、ホームページとか最近ではツイッターを始めまして、それらを通して町民に周知していけるように考えております。

移動図書館車は、昭和50年から走らせていきまして、現行のバーバパパ号も30年走っていますので、一定認知はされていると思っておりますが、新たに転入された方にはもちろん啓発や広報をしていきたいと思っております。

○尾崎委員

精華町は新たに住民になった方も多いため、移動図書館車が町内巡回するので、もっとアピールできればすごく良いと思っております。

○田中委員

移動図書館車に乗車する職員の方は2名ということですが、交通安全はもちろんですが、巡回する地域の中で支援いただくボランティアを募集しても良いと思っております。学校運営でも地域と学校の協働活動がされていますので、そういった連携も私は大事だと思います。住民との連携で取り組めたら移動図書館車の存在も地域に浸透していくと思っております。

○事務局

昨年度から図書館ボランティア養成講座を開催しており、ボランティアで図書館に貢献していきたいという方もおられますので、今後もそのボランティア養成を続ける中で、職員と地域のボランティアの方のご支援により、さらなるサービスの向上に努めていきたいと思っております。

○高鍋委員長

精華町でごみアプリというのがあり重宝しています。特に若い人向けには、どんどんウェブを活用した広報ができると思っております。移動図書館車のアプリを開発するのも面白いと思っております。ボランティアもそこで募集したり、また高齢者の方も使えるよう

にフォロー体制ができたり活動が広がれば素晴らしいことだと思います。

施設へ巡回されるときは、高齢者施設でしたら午前中の時間帯は繁忙であったり、乳幼児のある家庭が多い地域ですとお昼寝しているとか保育園の迎えとか忙しい時間帯があると思います。移動図書館を利用しやすい時間帯というのも各地域でアンケートを取ってみても良いかなと思います。

○事務局

昨年度からSNS班というのを図書館の職員の中で作りまして、今現在、主に新刊案内や行事案内をツイッターで取り組んでまして、引き続きより町民の方々に親しんでいただけるような方法を模索したいと思います。

福祉施設等のご意見も聴いたり、各地域でのご意見も聞き取りながらいろんな方法で利用者のニーズを把握していきたいと思います。

4 その他

○白畑委員

毎日登校を見守っているのですが、コロナ禍で卒業式でも子どもたちに会えないので寂しい思いをしています。そんなこともあり早くコロナが収束するのを願っております。

○米澤委員

学校では、社会に開かれた教育課程、地域とともにある学校、学校を核とした地域づくり実現のために、地域との連携をどんどん押し進めたいところに、この2年間のコロナ禍でした。子どもたちの命を守る、地域の方々の安全ということが中心になってきて、感染拡大防止のため諸行事に取り組めないこともあり、子どもたちの経験の面でも補いきれてない部分があると思います。

コロナ禍の中であっても、学校と地域の方々が学校に協力してもらい、学校も地域に貢献できるような体制を今後も考えていきたいと思いますので、今後ともご協力をよろしくお願いします。

○堀口委員

いろんな行事等も中止や縮小されてますし、体操教室でも、ご高齢の方は1回休まれると、次に出席するのにもものすごく力が要るみたいで、そういう方にこそ手を差し伸べていきたいのですが、今は仕方がないのかなという半分諦めの気持ちと、どういうふうに手を差し伸べていけばよいのかということ仲間と話合っています。

○北尾委員

小学生、中学生の子でもたちは、通学の時などで会う時はいつも声かけしますが、きっちり声を返してくれますし、近所の公園で遊んでいる子どもたちが帰る時も声をかけてくれます。そういう日常のちょっとした声かけ、コミュニケーションを取り合

っていければ良いなと思っています。

○川村教育長

子どもの感染が非常に多いのですが、少しずつですが収束の兆しも見えてきました。そうなりますと、これまでできていたことを、まず復元させていくということになるのですが、学校でもそうなんですけど、今までと同じことをただ復元させるのではなく、進化させて、要らないものはカットして、良いものを伸ばすという進化のチャンスとしていくという視点も大切にしていきたいと考えています。皆様とそれぞれの取組を再開できる日はそう遠くはないと思っております。

○田中委員

地域住民、特に地域の中で活動しているボランティアの方々は、子どもが物事を中心となって人と人とのつながりを強くしている場面が多いと思います。コロナ禍がもう3年目となり、卒業式、入学式、運動会でも出番がなくなり、子どもたちに会えなくなったんだというような感覚に陥っています。

コロナ禍であります、行政も学校もそれぞれの立場もありますが、何とか地域住民が広く交流を深めることができるような方法を考えていただきたいと思ひますし、この状況を、良い方向に変えていけるよう、我々社会教育委員もしっかりと協力していかなければいけないというふうに思っています。

5 閉会

○村上委員

昨年の11月2日、舞鶴中総合会館で、京都府の社会教育研究大会に参加させていただきました。天理大学の岡田副学長から、学校と地域の協働についてという講演をいただき、奈良市の中学校区でのコーディネーターの取組をご紹介いただきました。また、地元の青葉中学校の地域支援協議会の実践発表では、コーディネーターとして社会教育委員の方が中心となり組織してやっておられるというのは非常に参考になりました。

11月16日の京都府の地域学校協働活動研修会では、普賢寺小学校の実践発表や福知山市の実践発表があり、心温まるお話や苦労話を聞くことができました。

午後からは実践熟議というのを実践グループで交流協議がありました。そこで精華町の協働本部の地域コーディネーターの3名の方がファシリテーターという役割を担っていただいて、熱心にリーダーシップを発揮されていたので頼もしく思いました。

今年度は社会教育委員の研修の機会が、中止や、又はオンライン開催となったりして、委員の皆様も何か忸怩たる思いを持っておられると思います。令和4年度についても京都府の研修会など計画されることと思ひますので是非ともご参加いただければと思ひますし、そういう場では府内各所からの同じような立場の方が集まっておられ

ますので、情報交換など貴重な機会となることと思います。

それから、熟議につきましては、やはり一度この社会教育委員のメンバーでやってみても面白いかなと思います。社会教育委員とは何かというテーマでそれぞれ意見を出し合ってそれをまとめますと、精華町社会教育委員としての活動の一つの方向性が見えてくるような気がします。

あと、うれしいニュースですが、精華町出身の高校球児が新聞に大きく掲載されるくらい大活躍しています。全国区で頑張っている子どもたちが育っているということは、精華町の大きな地域の力の支えがあったからかなというふうに思いますし、そういう面で何か社会教育委員のそれぞれができることを小さいことから結構ですので、できることからどんどん進めていければと思いますので、決して後ろを振り向かずに前を向いて取り組んでいければ良いかなと思っております。

本日はありがとうございました。